

I 大分県が目指す幼児教育と子どもの姿

1 目指す幼児教育

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っています。生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力、思考力、感性、表現する力などを育み、人間として、社会と関わる人としての生きる力の基礎を培うことが大切になります。そのためには、遊びを中心とした生活を通して、発達に必要な経験が得られるように保育者による意図的・計画的な指導が必要です。

本県では、小学校の前倒しのような早期教育を行うのではなく、幼児期の発達の特性に合った『遊び』を大切にした生活を通して、生きる力の基礎を培う幼児教育をめざしています。

遊びを大切にする幼児教育



2 目指す子どもの姿

しんけん遊ぶ子

幼児期の子どもは、遊びを中心とした生活を通して、小学校以降の学びや生活の基盤につながる様々な学びの芽生えを身に付けています。幼児期の遊びの充実が小学校以降の学びに向かう力につながっていきます。そのため、ただ遊ぶということではなく、夢中になって遊ぶ子どもを育てていくことが大切です。夢中になって遊んだ経験のある子どもは、大人になってからの生活に大きな影響があるということも研究で明らかにされています。

そこで、大分県の幼児教育は「夢中になって遊ぶ子」の育成をめざし、目指す子どもの姿を、大分の方言を使って『しんけん遊ぶ子』という言葉でより強く表しています。

3 幼児教育の範囲

「大分県幼児教育振興プログラム（改訂版）」における「幼児教育」の範囲は、小学校就学前までの子どもを対象とした幼稚園・保育所・認定こども園において行われる教育・保育としています。

つまり、小学校就学前までの子どもとは、0～5歳児の子どもを意味します。

新しい保育所保育指針には、0～2歳児の保育に関わるねらい及び内容が新設されました。その理由の一つとして、「非認知的能力」が0～2歳の頃からの関わりが大きく関係しているとわかってきたことが挙げられます。

「非認知的能力」とは、「社会情動的スキル」とも呼ばれ、「我慢できる」「人の気持ちがわかる」「自分の気持ちを切り替えられる」等の数値では表せない力を指します。

このように0～2歳という時期は、人間の成長のなかでも重要な時期と言えます。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のそれぞれに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」いわゆる「10の姿」が共通して記載され、幼児教育と小学校教育との効果的な接続が求められています。特に3～5歳児の幼児教育の質の向上は、引き継ぐ小学校教育だけでなくその後にも大きな影響があるものとして益々重要と考えます。

このような状況を踏まえながら、幼児教育センターの取組を進めていきたいと考えています。

4 言葉の定義

(1) 「幼児教育」・・・「幼児期の教育」「幼児期の教育・保育」と同様の意味

※本書においては、「幼児教育」は、幼稚園で行われる教育、保育所で行われる保育、認定こども園で行われる教育・保育を含みます。

(2) 「園」・・・幼稚園、保育所、認定こども園の総称

(3) 「保育者」・・・幼稚園教諭、保育士、保育教諭の総称